



ものづくりを取ったら国が成り立たないというのが私の持論です。そういう意味で、監督のお話にはとても共感できると思いました。

元氣な行田の実現に向けて

工藤市長 私のまちづくりの目標は「笑顔あふれる元氣な行田」の実現です。福澤さんは撮影で全国各地を訪れていらっ

しゃいますが、その経験からさらにまちが元氣になるヒントを頂けないでしょうか。

福澤さん 今、どの地方の町も様子があまり変わり映えしないように思われます。そんな中でも観光客が訪れる場所の絶対条件を自分なりに考えると、やはり「食べ物」ですね。今からすごい施設を作ろうとお金ばかり掛かってしましますし、それがうまくいくかどうかも分かりません。でも、人が集まる場所には絶対においしい食べ物があります。そして、そこに来ないと食べられないこととさらに付加価値が高まるのです。この特産品は何かと考えることから始めてはどうでしょうか。できれば高価でないものが良いですね。また、ロケ地としての面を考えると、ドラマ「陸王」や映画「七つの会議」、そしてドラマ「下町ロケット」の続編と撮影させていたのですが、こうしたことが何年間か続くと行田市がドラマや映画業界でも徐々に有名になってきます。その結果、多くの撮影が行われ、もっとたくさんの方が来るようになると思います。

工藤市長 まさに、ロケを通じた地方創生ですね。今日は福澤さんの活躍や作品への思いを伺って大変参考になりました。これからも、ぜひ、いろいろな形で行田市と関わっていただければ幸いです。最後に市民の皆さんにメッセージをお願いします。

福澤さんのサイン色紙と「陸王」公式BOOKをセットにして5名様にプレゼント!

市内在住・在勤・在学の方を対象に、福澤さんの直筆サイン色紙と「陸王」公式BOOK明日も元氣に働こう! (集英社刊)をセットにして5人の方にプレゼントします。



《応募方法》

住所、氏名、電話番号、市外在住の方は勤務先または学校名、「新春対談」の感想を明記の上、1月31日(木)までにはがきまたはEメールでご応募ください。※1人につき1通のみ【はがき】〒361-8601 行田市本丸2-5 行田市広報広聴課「新春対談プレゼント」係【Eメール】kohopresent@city.gyoda.lg.jp なお、発表は発送をもってかえさせていただきます。



ました。朝から時には深夜までずっとお付き合いいただけたことに本当に感謝しています。今後、インターネット配信のドラマが増加し、国内外の枠が外れて日本のドラマが海外でもたくさん見られるようになりたいです。そうなる、もっとドラマの撮影は増加していくと思います。今後の作品も、ぜひ行田市で撮影したいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

工藤市長 これからも福澤さんが日本を代表する監督として活躍されることを祈念いたしております。私も、引き続き福澤さんをはじめ、多くの方々に撮影に来ていただけるようロケ地としての環境を整えてまいります。そして、映像作品を通じて行田市の魅力発信で、まちを元氣にしていきたいと思っております。本日は本当にありがとうございました。

もがへん入るの思い

工藤市長 福澤さんが演出家の道を志したきっかけは何ですか。

福澤さん 私は、福澤諭吉の玄孫として生まれ、慶應義塾幼稚舎(小学校)に入りました。学校では、「好きでたまら

ない仕事を見つけない」と言われ、仕事につきプライドを持って生きていくことが人間にとっていかに大切か、そして、そのために勉強するのだと教わってききました。元々映画が好きで、中学2年生の時に見た映画に衝撃を受け、将来は映画監督になりたいと強く思いました。しかし当時の日本は、海外と違って映画監督になるために学ぶ環境は整っていませんでした。そのため私は、クラブ活動で入っていたラグビーに夢中になり、厳しい練習に打ち込み、高校では日本代表に選ばれるまでになりました。もちろん大学まで続けたラグビーの経験は、現在も役立っていると感じています。そして、大学卒業後に一度は映画と関係のない会社に入りました。しかし、映画監督にな

りたいという思いを抱えながら過ごすうちに、先輩から、まずはテレビドラマをやってみたらいいと勧められたのを機にTBSテレビの採用試験を受け、現在に至っています。

工藤市長 福澤監督の作品づくりの根底にある考え方について教えてください。

福澤さん 役者の皆さんには、「面白い作品を作るのは当たり前だが、日本のものづくりを担う人たちが元氣になれるようなドラマを作りたい」と話しています。かつて小説家の山崎豊子さんに「日本を支えているのは、ものづくりの人たち。ものづくりの技術者たちが主役になれるようなドラマを作るべき」と言われ、いたく感銘をうけました。そんな折、池井戸潤さんの小説『下町ロケット』に出会ったのです。読み進めるうち、とても面白い上に大いに感動し、ものづくりに携わる人たちがメインになっていくドラマを作ろうという決心ができました。最近では、働く人たちが元氣にするためにこの仕事に就いたのかもしれないとさえ思っています。

工藤市長 私は、市職員時代に「ものづくり大学」の誘致に携わりました。もっと即戦力になるものづくりのエキスパートの養成が必要であるとの考えに基づいてこの大学誘致に取り組みしました。製造業をはじめ、ものを作ることは日本が生き残る上で非常に大事です。日本人から



ました。朝から時には深夜までずっとお付き合いいただけたことに本当に感謝しています。今後、インターネット配信のドラマが増加し、国内外の枠が外れて日本のドラマが海外でもたくさん見られるようになりたいです。そうなる、もっとドラマの撮影は増加していくと思います。今後の作品も、ぜひ行田市で撮影したいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

Profile

プロフィール

お かわ かつ ぶく
お 澤 克 雄

1964年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。関東代表、学生日本代表、日本代表Aにも選出された元ラグビー選手。株式会社TBSテレビ入社後、『3年B組金八先生』『華麗なる一族』『半沢直樹』『下町ロケット』など、数多くのTVドラマの演出を手掛け、『私は貝になりたい』『七つの会議(2019年2月公開予定)』などの映画で監督を務める。文化庁芸術祭大賞他、受賞多数。

